

+Affiliated with the International Association
THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOJI
Chartered October 30, 1994



〒192-0906
東京都八王子市北野町575-22
並木 真 TEL: 090-4314-3044
Fax: 042-649-5276
E-mail: m.namiki1020heartbeat@gmail.com

2025年1月

The Service Club of The YMCA

第355号

東京八王子ワイズメンズクラブ

会長	並木 真	国際会長 A シャナヴァスカーン (インド) 主題「より良い世界のために、共に」
副会長	久保田 貞視	スローガン「立ち上がろう、そして輝こう」
書記	小口 多津子	アジア太平洋地域会長 ジョウン・ウォン (台湾) 主題「大きなインパクトを起こそう」
会計	長谷川あや子	スローガン「大胆に、信念を持って奉仕しよう」
直前会長	花輪 宗命	東日本区理事 山田 公平 (宇都宮) 主題「ワイズの方向性を見極める」
担当主事	菅野 牧夫	スローガン「ユースエンパワーメントをYMCAと共に」
プリテン	山本英次 大久保重子	あずさ部部长 ピーター・マウントフォード (甲府) 主題「めあて 望み」
		八王子クラブ会長 並木 真 主題「協働と共感」

2025年1月例会プログラム

(担当 A 班 佐藤、長谷川、稲葉、小口)

日時: 2025年1月25日(土) 18:00~20:00

会場: 八王子市北野事務所2F 大会議室

司会: 佐藤信也

- ・開会点鐘 会長 並木 真
- ・ワイズソング 一同
- ・ワイズの信条 一同
- ・ゲスト・ビジターの紹介 会長 並木 真
- ・聖書朗読と感謝の祈り 長谷川あや子
- ・卓話 能登半島災害支援活動報告
～支援活動を通して学んだこと、感じたこと～
東京YMCA 会員部職員 熊沢佳代氏
- ・スマイル (能登半島震災支援のために) 稲葉恵子
- ・報告・連絡事項 会長・各委員
- ・ハッピーバースデー (佐藤信也・正子、並木信一)
- ・閉会点鐘 会長 並木 真

巻 頭 言

新しい年の始まりです

会長 並木 真

明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお
願い申し上げます。



昨年、東京八王子クラ
ブにとって30周年という節
目の年でした。5年ぶりに
チャリティーコンサートを開

催し、300名を超える方にコンサートを楽しんで頂き、日
本地雷廃絶キャンペーン、東京YMCAの「能登半島地
震被災者支援募金」にご協力頂きました。また、10月26
日には、30周年記念例会に90名を超える方々がご出席
下さり、たくさんのお祝いの言葉を頂きました。その中
には、IBCの台湾高雄ポートクラブから7名も駆けつけて下
さいました。交流の喜びと感謝の1年だったと思います。

今月の聖句(2025年1月)

その時、イエスが、ガリラヤからヨルダン川のヨハネのところへ来られた。彼から洗礼(バプテスマ)を受けるためである。ところが、ヨハネは、それを思いとどまらせようとして言った。「私こそ、あなたから洗礼(バプテスマ)を受けるべきなのに、あなたが、私のところに来られたのですか。」しかし、イエスはお答えになった。「今はそうさせてもらいたい。すべてを正しく行うのは、我々にふさわしいことです。」そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにした。

(新約聖書 マタイによる福音書 3:13~15)

さあ、新たな年の始まりです。30周年という節目を超えたこの時、クラブメンバーの皆さんと「クラブとして、どのような新しい一歩が踏み出せるか。」「地域に必要とされているものは何か。私たちに出来ることは何か。」を探し、実行に移せるように考えていけたらと思っています。私たちの力だけでは難しいときでも、中央大学ひつじくのメンバーや近隣クラブのメンバーに声をかけて、みんなが地域の力になればどんなに良い活動になることでしょう。

近隣クラブの活動にも参加協働することで、地域活動が点から面になり、「ワイズメンズクラブ」の名称もより世間に認知されるのではないのでしょうか。昨年の大きなイベントの成功、交流の喜びを思い返すと、私たちはまだまだ実りある活動が出来ると強く思いました。これからも楽しい交流を続けながら、新しい道を歩いていきましょう！

2025 年 在京ワイズ新年会

長谷川あや子

2025年1月11日、東京YMCA 東陽町センターで行われた在京ワイズ新年会に並木真会長、菅野担当主事、久保田さん、小口さんとともに参加いたしました。

ホストは東京西クラブでしたが、今年度から合同例会を続けている東京武蔵野多摩クラブ、東京たんぽぽクラブの皆さんがチームワークよくスムーズに楽しそうに新年会を進めていらっしゃる様子が印象的でした。

当日の献金は能登半島震災支援にあてられましたが、被災された方が一日も早く穏やかな日常を取り戻されますよう心から願います。菅谷淳東京YMCA 総主事からの新年メッセージでは能登半島震災後3か月で60名のスタッフがリレーで支援に訪れたこと、当初はYMCAを知らない方ばかりだったが日が経つにつれて大歓迎を受けるようになったというお話を聞きました。YMCAの明るさ、献身的なお働きが被災された方たちの気持ちを和ませ元気づけたのではと思います。YMCA 同盟総主事代理の横山由利亜さんからはウクライナから日本に避難してらっしゃる方たちを丁寧にサポートしていることを伺いました。

第二部ではたんぽぽ寄席でお馴染みの噺家、橘ノ百圓さんの一席をお聞きました。ちょっとホロリとさせて品のある落語で私は大好きです。

第三部交歓会のアピールタイムでは並木会長が昨年

10月の東京八王子クラブ設立30周年記念例会にお越し頂いたお礼と今年3月にはIBCの高雄ポートクラブ25周年記念例会に5名で伺うこともご紹介下さり、そして最後に我がクラブの一大行事、春のチャリティコンサートをアピールなさいました。私たちがポスターを持って大いに宣伝いたしました。お蔭さまでチケットも沢山買って頂き感謝です。私は今年は勇気をもって新しい方にもお声掛けをし、購入して頂きました。ワイズの皆さんの応援が有難く、コンサートを楽しみにして下さっていることも感じました。

新年会終了後は二次会で近くのサイゼリアへ雪崩れ込みました。山田理事、東京、多摩スマイル、西、武蔵野多摩、たんぽぽ、サンライズ、八王子のメンバーが再び乾杯！それぞれ一つずつ年を重ねてまいります。夢を失わずに歩んでいきたいと思いました。



在京ワイズ新年会集合写真

抱負にかえて、今年の課題！

並木信一

今年の抱負を書いて、と求められ、はたと困りました。頭に浮かぶのは片づけなければならぬ課題ばかり。いつも頭に浮かんでは何かに追いやって凌ごうとしていたものに、ちゃんと向き合え、と叱りつけられている気持ち。酷なことを求める、というのが正直な思いです。

課題は山積み、すべての部屋が乱雑な物置と化している部屋の再生、わずかであるにも拘わらず分散未整理な資産の整理整頓等、後継者に迷惑をかけないような身辺整理、その他。

新しい年、どうしよう。



新春に想う

長谷川あや子

ワイズと友の会(婦人之友の読者の集まり)は私の生活の柱ですが、それに加えて今年は旅に出ようと思います。昨年の秋は足立美術館を中心に山陰へ、お正月は京都、奈良を楽しみました。4月は福島の隠れた桜名所を夢見しています。旅に出て英気を養い、ワイズ活動に心を尽くすことはもちろんです！

「新春に想う」

菅野牧夫

丙午の私は今年度58歳になります。25歳でYMCAに入職して32年の月日が経ちました。いろいろな職場を体験してきましたが、わくわくビレッジで働いた期間がトータル10年ほどで一番多くなりました。あっという間の30余年でしたが、あと2年で定年の年となります。還暦を迎えたときに悔いを残さないよう、残りの2年をしっかりと腰を据えて、今までやってきたことや若かった時のがむしゃらさを思い出して、仕事に向き合っていきたいと思っています。皆様お付き合いください。

2025年新春に思う

久保田貞視

昨年は内外共に自然災害・人工災害の多い年であった。わが国では正月早々能登半島の大地震があり、羽田空港での日航機の衝突、秋には能登半島には大雨による洪水被害、夏には40℃に迫る猛暑が続いた。一方海外でも米国、英国、スペイン、ネパール、ヴェトナム、インド、中欧での台風等大雨による洪水及び夏の猛暑による事故など地球温暖化の影響がますますひどくなっている。暮れにはアゼルバイジャン航空とチェジュ航空事故は整備不十分等によるも発生した。

また、第2次大戦終了から80年にもなるのに、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザの爆撃、北朝鮮の弾道ミサイルの発射実験、中国・ロシアの日本の領海侵犯などきな臭い状況が続いている。

日本としても国内問題として台風・地震など自然災害に

よる被害対策とともに外交面での交渉力が問われている。特に、トランプの米国、隣国の中国・ロシア・韓国・北朝鮮との関係を如何に改善するか難題が多い。世界が平和になるのはいつなのか。

個人的にはワイズでは昨年10月クラブの30周年設立例会を皆様のご協力により無事に終え、今年からワイズ活動をいかに活性化させるか、チャリコンとひつじぐもとの協働、高雄とのIBCは維持するとしても会員増強をどうするか課題である。自分も既に齢85歳を過ぎ、残っている友人の多くは自分のことで精いっぱいワイズのような奉仕団体加入には関心が無い。高齢ながら大学・高校の地域のOB会や地域団体に参加して若い人達を如何にリクルートするか思案中である。

プライベートの目標としては、まずは家族の健康、ワイズだけでなく地域での社会福祉活動、好きな旅行、高尾山登山の継続というところでしょうか。

新春の祈り:八王子・川越・町田7福神巡り、地元の白山神社、高尾山・高幡不動への初詣の効果を期待。

7回目の巳年に想う

山本英次

今年の私は年男・7回目の巳年であります。蛇は嫌いだ、が、苦しい脱皮を繰り返して大きく成長する姿には共感が持てる。これまで自分に合った殻に安住していたこの人生に遅まきながら元旦に反省を試みた。

しかし老境の今、何を持って脱皮と言えるのだろうか？孫と行った海外旅行は大きな生きがいであったが、今となっては夢物語であります。寝たきりにならない健康維持、これを持って「巳年への抱負」としましょうか？



「子ども食堂カフェ北野」 のご報告

久保田佐和子メネット

「子供食堂北野カフェ」についてブリンの12月号に記事を取り上げて下さいました「子ども食堂カフェ北野」には、12月14日(土)11月のスマイル(¥12,500円)を並木真会長とお届けしました。

前もって奥野代表のご都合を聞くために私が伺ったときは花輪豊子さんも一緒にしてくださいました。

全く知らない私が伺っても子供たちやボランティアの若者が笑顔で迎えてくれました。

たまたま「ナビスコ JAPAN 関係の久保田の友人」がタイングよくふるさと郵便として段ボール一杯のお菓子を送ってくださり一緒にお持ちしました。

奥野代表と並木会長とは今後ワイズメンズクラブが何を手伝えるかなどを話していただきました。

14日のクリスマス例会時、メンバーの方のご寄付の野菜、お茶、お金(ご寄付あり)などを19日に久保田メと持参いたしました。感謝していただきました。

以上ご報告させていただきます。久保田佐和子

クリスマスイベント特集

特別寄稿

クリスマス例会礼拝メッセージ (要旨)

「暗き世を照らす光」

日本キリスト教団牧師 飯島 隆輔

クリスマスおめでとうございます。

教会付属の幼稚園でも2学期の最後の日にクリスマス会を行います。年長組



のクラスはページェント、イエスキリストの降誕劇を行います、子どもたちは何度も練習して熱演します。子どもたちが演じるこのイエ

スキリストの誕生の物語は、マタイとルカによる福音書の降誕の物語を抜粋して一つにしたもので、マルコによる福音書やヨハネによる福音書にはありません。イエス誕生の物語はフィクションです。福音書は「イエスは救い主である、神の子である」という彼らの信仰を伝えるために、イエスの説教や、病人の癒し、奇跡などの行為の伝承をまとめたもので、歴史書でもイエスの伝記でもありません。イエスが十字架につけられて死んだ後、イエスを直接知らない教会の人たちにイエスの言動や説教を伝え、また教育するために、イエスについての伝承や言語集をまとめたものです。四つの福音書は著者や書かれた場所、書かれた年代も異なり、書いた意図、強調点も異なります。ヨハネ福音書の1章1~18は、ヨハネ福音書全体を言い表しています。

ヨハネによる福音書は「初めに言があった」と始まりです。著者ヨハネは言(ロゴス)という言葉を使うことによってキリスト教をギリシャ文化の世界に伝えようとした、ともいわれ、「ロゴス」を神の知恵またはイエスキリストとも言い換えられます。4節で「言の内に命があった」とありますが、ヨハネ福音書著者は「永遠の命」はイエスのメッセージの中心であると考えました。「イエスキリストの中に永遠の命があった」と(4節)ということです。人間はいつか必ず死にます。人間は魂(プシュケー)とは本質的に異なる、神と共にある命(ゾーエー)を得ることが人間の救済であると言っています。

14節で「言は肉体となって、私たちの間に宿られた」と書かれています。これは神が人間を救済するために人間となったのだと言っています。キリスト教の特徴は抽象的概念や理念ではなく、具体的です。イエスは正真正銘の人間なのです。

イエスは説教をし、病人を癒し、奇跡を行いました。イエスは次のように言っています。「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」(マルコ1:15)。神の国とは神の救いと解放の働きです。神の救いと解放の業はあなたのすぐ近くに来ている。だから、あなたも福音を信じて神の救いと解放の働きに合わせて生活をなさいと言っています。

イエスの宣教は悔い改め(メタノイア)です。悔い改めとは悪いことをしてごめんなさいと反省して謝ることはありません。どうするか何をするかを考え、判断するときの「視点、立場を移しなさい」「低くしなさい」と言っています。どこに移すかというとイエスキリストが自ら置かれた視点まで低くすることです。

神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようと思わず、かえって自分を無にして僕(しもべ)の身分になられた(フィリピ2:6~8)キリストに倣って、視点を社会で最も弱い立場に置かれている人々のところへ移

すことです。最も小さい者、弱い者とは、衣、食、住、健康、自由、交わり、尊厳が奪われ、或いは抑圧されている人たちのことです。

イエスは神に祝福された人たちに対して、「私が湧えた時に食べさせ、のどが渇いたときに飲ませ、病気の時に見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。…私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、私にしてくれたことなのである」(マタイ26:31~40)。また、神を愛することは、自分を愛するように隣人を愛することであると言ひ、イエスは隣人とは誰かと問われたとき、良きサマリア人のたとえを語り、「追ひはぎに襲われて服をはぎ取られ、殴りつけられ半殺しにされて道端に捨てられた人を見て、一人のサマリア人が、そばに行き、その人を見て憐れに思い(はらわたのちぎれる思いになって)、近寄って介抱した(ルカ10:25~37)」ことを述べ、そのサマリア人が追ひはぎに襲われた人の隣人になったことを示し、「あなた方も行って同じようにしなさい」と命じています。

悔い改めるとは、視点を社会で最も弱い立場に置かれている人々のところへ移すことです。それはその人の人生観、価値観を根底から変えること、180度方向転換することです。死んで生まれ変わることです。イエス・キリストの誕生の祝であるクリスマスは、私たち自身が悔い改めて、視点を社会で最も弱い立場に置かれている人々のところへ移して、生まれ変わった私たち自身の新しい誕生の喜びの祝いです。



飯島隆輔氏のご紹介

旧友の並木信一さん

今日はご夫妻で参加していただいています。個人的なことになりますけれども、私は飯島さんとは年齢が一緒で、東京YMCAの職員になった入職が同期なんです。同期は2人だけしかもないので、22歳からのずっと付き合いでありまして、もう60年ということです。二人とも、YMCAでもいろいろな仕事をしましたけれども、私は宇都宮(現とちぎ)で、飯島さんは埼玉、仙台YMCA

でそれぞれ総主事、と、東京以外のところで働く経験も一緒、YMCA以外でも、飯島さんは「東京いのちの電話」の事務局長をしたことがあります。私は「東京多摩いのちの電話」の事務局長をしておりました。また、特別養老人ホームでも、飯島さんは江東区の門前仲町で、私は中央区の新川でそれぞれ施設長をやりました。隅田川を挟んでですね。おーいという声が届くような、そういうような関係。その後、飯島さんは、勉強を重ねて牧師になられました。幼稚園の園長を兼務してですね。私は賛育会で保育園の開設を担当して園長をやりました。お互いの経験がほとんど重なっているんです。珍しいですね。ただ飯島さんが立派なのは牧師になったこと。一番親しい友人で、親友の一人なんです。飯島さんはワイズでも50年にわたって、東京武蔵野、東京山手、武蔵野、埼玉、仙台で、担当主事、メンバー、あずさ部長の経験があり、奥様も愛子さんも、以前、ワイズメンバーで、山手クラブでメンバーでしたね。

私はこの二人の結婚式の司会も担当しております。愛子さんは美大を卒業してまして、七宝焼きの専門でいらっしゃるって、私の所属教会が新しく会堂を建築したんですけど、その献堂式で、大きな七宝絵を寄付していただくというようなこともございました。以上、あらためて個人的な関係を含めまして、飯島さんご夫妻を紹介させていただきます。



2024年度クリスマス例会

写真提供：田中博之さん

クリスマス例会に参加して

東京多摩スマイルワイズメンズクラブ

綿引康司

まずは、本年も八王子クラブのクリスマス例会に参加させていただき、楽しい時間を過ごすことができましたことにお礼を申し上げます。



私が八王子クラブのクリスマス例会に参加させていただいたのは今回で4回目(?)でしょうか。本年も例年通り「第一部:礼拝」「第二部:懇親会」の形式であ

り、創立30周年のクラブだけあってしっかりと枠組みを確立され、会の目的を明確にして実施されているという印象を持ちました。特に第一部は祈りの時とし、牧師からメッセージを頂戴することによりクリスマス例会として厳粛かつ清々しい雰囲気を作られていました。私の所属する多摩スマイルクラブでは、クリスマス例会にクラブが支援している無料塾や子ども食堂の皆様を招待して、全てを懇親の場とする形式であることから、両者には明確な目的の違いがあり、それもクラブの個性だと思います。

本年は飯島隆輔牧師からイエス様の生誕についてのお話を伺いました。今回も参加されていた中央大学「ひつじくも」の皆様の中には、若者である故に、かつての私と同様に、クリスマスは「ケーキを食べ、プレゼントをもらう日」「お酒を飲んで楽しく過ごす日」と認識している方もいるかもしれません。そのような意味で師からのメッセージにより、クリスマスは「イエス様の誕生を祝う日」、そして『「イエス様の生誕」は神様の愛のしるし』というクリスマスの本質が伝わったのではないのでしょうか。牧師をお招きしての会は有意義だと感じます。

第二部の懇親会では、豪華なお弁当をいただき、自己紹介、ピアノとバイオリンの演奏、そして全員と一緒に歌う楽しい場となりました。

私にとっては、ワイズ、YMCAの活動に導いてくれた酢屋善元元ワイズと、お嬢様の永町匡世様、阿部智世様にお会いする良い機会が与えられました。感謝をいたします。特に、酢屋様は同じ教会に属しておられますが、ご高齢ということもあり、最近お礼拝出席がままならないと伺っていましたので、元気なお姿を拝見し、安心した次

第です。

今回もワイズは楽しいと感じさせていただきました。私は八王子に住んでおり、並木会長の隣町の住人です。また八王子クラブの皆様には弊クラブのプランター講座への参加や、ワイズ、YMCAの活動の場で一緒にすることが多く、日頃より親しく接していただいております。改めて感謝を申しあげるとともに、今後もより一層良き関係を続けていくことを願っています。これからもよろしくお願いたします。



同僚の為我井輝忠氏とともに



評判のお弁当



佐藤絵里子さんを囲んで
宮内蒼也君、藤原直輝君、石原島怜名さん、折原美結さん

インターナショナルユースコンボケーションの報告会

東日本区理事 榎野、山田公平理事

皆さんこんばんは。そして IYC でドバイに行ってきた学生の 2 人、おかえりなさい。今日は皆さんのお話を聞いて、皆さんが何を感じたか、どんなことが私たちにできることなのか。ということも含めて、考えるきっかけにしたいと思っています。楽しみにしています。よろしくお祈りします。

ユース事業の取り組み: 三田主任

今年度の東日本区としてのユース事業としての活動について、簡単にお話をさせていただきたいと思います。今年度は、まず 9 月にユースボランティアリーダーズフォーラムの活動を行いました。山中湖センターで、9 月 6 日から 8 日まで、2泊 3 日で行いました。今年度は、キャンプに行くと、社会問題についても考えようということで、幅広くいろんなことを考えられる時間を持ったユースボランティアリーダーズフォーラムになりました。

今年度もそうだったんですけど、来年度もそういうことを考えながらできるユースボランティアリーダーズフォーラムにしていこうというふうに考えております。IYC、今回の報告でありますけども、インターナショナルユースコンボディエーションをドバイで行いました。その派遣を 2 名、今回はさせていただきました。今現在進行中ということで、ユースアクションについても今ユース事業の一つとして活動をしている最中でございます。

今後は、今年度は、IGO (Internships 4 Global Outreach / 18~30 才の若者にグローバルなコミュニティとの連帯や国際的な学びを育むために、参加する・繋がる・築く力を与える行動を中心に構成される就業体験)を提供やユースクラブ設立などいろいろありますけども、模索しながら来年度につながる時間をできたかなというふうに思っております。まだまだユース事業については見えない活動がたくさんあって、まだ理解できていない、されていない方もたくさんいると思うんですけども、今後は見える化を目標に、さまざまな活動を皆さんに情報提供をしながら活動を進めていきたいなというふうに思っていますので、

今年度はあと半年ぐらいですけども、今後ともよろしくお祈りいたします。

(赤字は、編集部脚注)

IYC ドバイ参加のお二人の報告会を聞いて

小口多津子

昨年 11 月 5~10 日までドバイで行われました、IYC (インターナショナル・ユースコンボケーション) 帰国後の報告会が 12 月 19 日の夜に、ユース事業委員会から ZOOM で開かれました。

東日本区からは、下山夏央さんと岩崎葵さんの 2 名が参加されました。お二人が感じたことが、とても時間が足りないくらいの内容豊かな報告でした。

お二人は、共に 1 昨年 8 月の AYC でネパール派遣されていて、仲の良いお友達なので、日本チーム代表の温かさを披露されたのではという雰囲気、報告を聞いていて感じました。

岩崎さんは、私もクラブが派遣しました、中央大学ひつじくも、前回のネパールでの報告会でも積極的に本当に楽しんでこられたことが伺えましたが、今年はさらに真剣でした。というも、お二人はこの夏のワイズのアジア大会の熊本で、併用してもたれる AYC (アジアユースコンボケーション) の企画から実行までの委員としてお役が期待されていて、その視点から今回のドバイを体験されてきました。

この日の発表は、下山さんは主に、大会のあらましとそこで感じた感想を。その感想を一言では、次のように言われました。「自分の価値観をしっかりと持ち、自分の言葉ですぐに意見できるようにすること」さらに「とにかく楽しむこと、自分のキャラクターに合っていないなくてもチャレンジしてみる」でした。なんと、これは私達ワイズへの言葉ではないのでしょうか。送り出したワイズへのお土産と私は、受取りました。

岩崎さんは、まずアラブ首長国連邦のドバイという国のことから、説明されました。

裕福層の国のイメージしかありませんでしたが、貧困との背中合わせの国ということを知りました。街の中へ進んで入られ、身近にその様子を知らせて下さいました。その発表の言葉の中に、学生さん?と思わせる固い一つの何か意志の強さも伺えました。

お二人の発表から、今夏の AYC 熊本が本当に期待できる成果につながりそうな思いを持ちました。岩崎葵さんは、今は予定ではありますが、東京八王子クラブ 4 月例会の卓話でもっと詳しく報告していただきますので、楽しみにしております。彼女は今の冬休期中 3 月までオーストラリアに留学中とのことです。

岩崎葵さんの発表の概要 (AIによる)

*参加の理由:

異なる環境や文化での生活を通じて、柔軟性や適応力を磨くことを目的としています。異文化や価値観に触れることで視野を広げ、日本では得られない生活様式を学ぶことを目指しています。YV や YMC の活動、来年度の AIC 熊本大会への貢献も参加の理由の一つです。

*ドバイについての説明

ドバイの概要: ドバイはアラブ首長国連邦の中心都市で、ペルシャ湾の南岸に位置しています。人口は約 350 万人で、その 80%以上が外国人労働者です。税制が緩く、ヨーロッパ、アジア、アフリカの交差点に位置しているため、多くの人が訪れやすい国です。治安が良く、ビザの発給や移住政策が柔軟で、専門職や富裕層を引き付け



ています。

*経済と文化

通貨は UAE ディルハムで、物価は日本の約 2.5 倍と感じられました。アラビア語が主流で、イスラム教の影響が強いが、比較的リベラルな都市です。ドバイチョコレートが人気で、ピスタチオのクランチが入った美味しいチョコレートです。

*セッションの体験

グループ活動: セッションでは日本人がいないグループで活動しました。インド、ベネズエラ、ロシアからのメンバーと共に活動しました。

言語の壁と対策: 英語のアクセントが強く、聞き取りに苦労しましたが、意図を伝える努力をしました。シンプルで明確な言葉を使い、笑顔とジェスチャーで補いました。

他国メンバーとの交流: 日本人メンバーで固まることなく、他国のメンバーと積極的に交流しました。韓国のメンバーが固まる傾向がありましたが、日本メンバーは他のメンバーと混ざって活動しました。

生き甲斐についてのセッション

生き甲斐の定義と意義: 人生において何かを達成し、充実感を感じられること。人生の意味や目的を見つけること。



講話者の視点: 生き甲斐は「What do you love?」という観点から考えられ、趣味や仕事、人間関係など、夢中になれる活動を見つけることが重要。

印象的な言葉: 「迷ったら心を踊る方にする」という言葉が「What do you love?」に似ていると感じた。

生き甲斐とミッション

ミッションとしての生き甲斐: 生き甲斐はミッションのようなもので、自分が果たすべき役割や目的を意味する。フォーカスすること: 自分のため、誰かのためにできることにフォーカスすることが重要。

日本文化の紹介

折り紙のワークショップ: インターナショナルスクールで折り紙を日本文化として紹介。アジアの子供たちは親しみがあり、スムーズに折れる印象。

文化交流: 日本人メンバーが会場全体に広がり、折り紙を教え、日本文化を紹介。完成した作品を持ち帰ることができ、参加者は喜んでいました。

その他の活動

スポーツ交流: サッカー、綱引き、バスケットボールを通じて交流を楽しんだ。

世界問題についてのディスカッション

少子高齢化問題: 日本人、韓国人、イングランド人のメンバーで構成。日本と韓国では出生率が低く、高齢化が進行。住宅価値や教育費の高さが結婚・出産を避ける要因。政府の医療や年金制度の整備、教育制度の改善、外国人労働者の積極的な受け入れ。

インドの人口問題:

若い年齢層が多いが、質の高い雇用機会が不足。若者への技能訓練の強化、経済成長を維持するための雇用創出と産業の多様化。

*文化の違いと観光体験

文化の違い: 日本人の旅行スタイルと現地の文化の違いについて議論。日本人はトラブルがあっても柔軟に対

応するが、現地では危険が伴うため難しいと感じた。雇用機会の整備がまだ発展途上であることを実感。

観光の様子: ドバイでの観光体験を共有。火のパフォーマンスやラクダのショー、美術館訪問など多国籍の仲間と楽しんだ。ドバイモールで日本のブランド(ダイソー、無印、キノクニア)を発見し、日本のビジネスの世界的な発展を実感。日本のアニメが世界に与える影響についても言及。若者たちがアニメを通じてコミュニケーションを図る様子を観察。

*イベントと交流

YESメンバーとの交流: 世界中から集まったYESメンバーとの交流が刺激的で貴重な経験となった。日本リーダーとしての役割を果たし、責任感を持って活動したことが印象的。

*AYCと今後の活動:

来年のAYCが熊本で開催されることを受け、開催地についての調査を進める意向。ワイズメンの活動についての理解を深めるため、積極的に参加する意欲を示す。

*情報提供とコメント



生きがいコーチファンデーション: 世界に「生きがいコーチファンデーション」が存在し、日本の「生きがい」という言葉が国際的に使われていることを紹介。

中東のYクラブの現状: 中東のYクラブの現状についての情報提供。UAEには18クラブ、メンバーは約330人。中東全体で約430人のメンバーがいる。インド人が世界各地でクラブを作っていることに触れ、その影響力を強調。

*WISEの報告と多様性の重要性

報告の意義: 小川さんがWISEでの報告の重要性を強調。多様性が失われつつある現状に対する抵抗感を表明。若い世代が多様性の重要性を認識し、新しい世界をリードすることを期待。

支援の必要性: 若い世代の成長を支援するための協力を表明。

*生きがいと日本文化

生きがいの概念: 生きがいという言葉が日本語のまま世界に広がっている背景を議論。他の日本語の例として「かわいい」「おもてなし」「もったいない」が挙げられる。日本の精神や概念が他の言語に置き換えられないことが理由とされる。

生きがいの国際的認知: 2016年のベストセラーが生きがいの国際的な認知を高めた。スペイン人が書いた本がきっかけで、言葉が独り歩きしている現状。

*YMCAと生きがい

YMCAの役割: YMCAが生きがいを感じる場所であることを再確認。過去の経験が現在の活動に影響を与えていることを強調。

若い世代への期待: 若い世代が国際的な感覚を持ち、YMCAの活動に参加することの価値を強調。

*評価と感想

体験の重要性: 大沢さんが文化の違いを体験することの重要性を強調。Y's Men's Clubの国際的なネットワークの価値を再確認。

*将来への期待: 来年の熊本での大会に向けた期待を表明。若い世代が日本の社会でリーダーシップを発揮することを期待。

*西日本区ユース事業報告

ユースの体験と成長: 植杉様が報告。西日本区から送り出した4人のユースが大きく成長して帰国。若者に体験させることの重要性を再確認。ドバイの高校での学びが、稼ぐためではなく、自己成長のためであることを実感。

*来年の熊本での活動

期待: 海外からの仲間と日本のユースが共に学び合う場を作る。日本の文化を大切にしつつ、外国籍の子どもたちの課題にも取り組む。ダイバーシティとインクルージョンの推進。

*将来の展望

目標: より良い社会を作り、次世代に継承。将来的にはWISEのメンバーとして若者と意見交換する姿を期待。

東日本区次期理事からの提言

ユースの運営と提言: 山下さんが報告。北海道カチエでのAYCの経験を基に、若者中心の運営を提案。東西のユースが積極的に提言し、組織を構築することを期待。

*Action Items

発表資料の準備と共有を改善する。
ユースボランティアリーダーズフォーラムの来年度計画を具体化する。

ユース活動の情報提供を強化し、見える化を進める。
異文化交流の経験を活かし、今後の活動に反映する。
コミュニケーションスキルをさらに向上させるための具体的なプランを立てる。

下山さんへの質問をリアクションボタンで表示する。
ユースクラブ設立に向けた再度の話し合いを岩崎さんや他の参加者で行う。

利根川さんが資料を共有する。

生き甲斐に関する個人の目標を設定し、実践する。

折り紙ワークショップの参加者からのフィードバックを収集し、次回の改善に活かす。
少子高齢化問題に関する提案を具体化し、関係機関に提案する。
インドの若者支援プログラムの可能性を調査し、提案をまとめる。
熊本でのAYC開催地について調査を進める。
ワイズメンの活動についての理解を深めるため、積極的に参加する。
来年の熊本大会に向けた準備を進める。
ダイバーシティとインクルージョンの推進策を検討する。
東西のユースが提言をまとめ、組織構築を進める。

対人地雷禁止条約 第5回検討会議の報告

久保田貞視

12月18日19時より、対人地雷禁止条約の第5回検討会議がカンボジアのシェムリアップで開催された。JCBLの清水代表が出席され、Zoomで報告されましたので概要報告いたします。

オタワ条約発効は1999年で今年で25年、四半世紀経った年です。今回の会議は11月25日から29日まで開催され、ホスト国・議長国は地雷汚染大国として知られているカンボジアでした。5年前の2019年にはノルウェーのオスロで開催され、そこで採択された5か年計画のオスロ行動計画の経過を振り返りながら、その課題を踏まえてこれからの5年の行動計画、シェムリアップアンコール



行動計画を策定するのが主案でした。10年前の第3回検討会議では条約で掲げた目標が2025年に達成することでしたがまず不可能で次の5年には達成しようとの強い政治的意思、締約国の結束を示すことがポイントでした。

前日の24日には会議の参加者及びカンボジア市民、関係者がアンコールワットに向かって、地雷なき世界へとシュプレヒコールをしながら行進しました。今回の会議にICBLから179人参加、地雷廃絶、地雷の無い世界を目指そうと意気込んで参加しました。

初日の1回目のハイレベルセグメントでは13の締約国の副大臣、政務官レベルに未加盟のベトナムからの政府高官のスピーチがあり、締約国がスリランカ以来増えていないがベトナムの早期加盟が期待できるシーンがありました。日本からは来年に第22回締約国会議があり、日本が議長国となるため外務政務次官に就任された英利・アルヒアさんがスピーチ。

初日には米国のウクライナへの地雷供与についてどの国も声をあげないので2日目の会議前に米国の地雷移転を非難するプラカードを掲げて代表団を迎えたところテレビ・新聞でも取り上げられ効果はあった。

地雷の汚染国は世界全体で58か国あり、うち締約国は33か国、未締約国が25か国あり、締約国で10年以内に地雷除去が終わりそうもない国は延長申請をするが8か国からの延長申請を審議した。うち、アフガニスタンはタリバン政権になったが受け入れたのは進歩でした。エクアドル、イラク、ペルー、タジキスタン、ウクライナは地雷除去義務を果たすために資金が必要だとの声が上がリ、中小規模の地雷汚染国の除去作業を支援することを目的に自発的な信託基金を作ることが今回の行動計画に含まれたのは良い結果でした。また除去期限は2028年だが4か国が期限前の除去を完了できるとの報告があった。パレスチナの汚染については関心が薄いが必要だ。

地雷の貯蔵は禁止しているが、研究・訓練目的での保有は認められており、現在22か国あります。訓練目的ではなく貯蔵している地雷は4年以内にすべて破壊することが必要です。

現在、貯蔵地雷を保有する国は締約国164か国のうち日本を含め94か国は既に廃棄を終了しており、残り70か国のうち67か国は地雷を保有していないので、保有国は3か国だけです。また、現在加盟していない国は33か国ですが未加盟のトンガとモロッコの2か国が積極的に発言しており担当委員に加盟を働き掛けて欲しい。

地雷の犠牲者は1999年に1万人いたのが2014年まで減少してきたがその後増加、2023年には5,700人、引き続き地雷使用の緊急の停止、除去作業の推進が必要です。うち市民は84%のうち子供が35%を占めており、子供を含めた危険回避教育が必要です。昨年ミャンマーが最も多く1,003名、シリアが900人、アフガニスタン、ウクライナで、ロシアの侵攻後ウクライナでの地雷犠牲者が増えています。

最後に討議の結果を踏まえた地雷の生産、使用、保管、移転を禁止する文言を盛り込んだ政治宣言(シェムリアップアンコール宣言)を25か国の同意を得て出すことになりました。

ひつじぐも便り

新執行部からのご挨拶

ひつじぐも ワイズ担当 石原島 伶名

こんにちは。中央大学法学部2年、ワイズ係の石原島伶名です。寒に入り寒さが厳しくなってきました。皆さまお変わりはないでしょうか。

まず初めに、総合政策学部3年折原美結より引き継ぎを受けまして、今月より2025年度ワイズ係長を務めさせていただきますことになりましたことを改めてご報告させていただきます。まだまだ未熟ではありますが、皆さまとの活発な交流ができるよう、精一杯務めさせていただきますと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



また、ひつじぐもの新幹部の紹介も改めてさせていただければと思います。まず委員長ですが、ひつじぐも2025年度の委員長は、法学部2年榎田に決定いたしました。続きまして副委員長ですが、経済学部2年の高橋と文学部2年の風間、そして法学部2年石原島が務めさせていただきますことになりました。幹部全員が思いやりと責任感を持った者たちですので、ひつじぐもの伝統やあたたかい雰囲気を引き継ぎつつ、より良い活動ができるよう努めてくれると感じております。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、クリスマス例会では、皆さまと非常に充実した時間を過ごすことができました。演奏会もとても素敵なおものでした。素敵な時間をありがとうございました。次に、先月のひつじぐもですが、13日に忘年会を兼ねての懇親会、14日と21日に児童館活動、15日に就活を終えた4年生による就活報告会など、様々な活動がありました。私たち幹部では、活動の中心となる係の募集を行いました。また、昨年より活動参加者が少ないことを受け、継続が難しくなる活動が出てきてしまうとの懸念から、活動人数を増やすための取り組みに向けて、全体アンケートを実施いたしました。皆が楽しく活発に活動できるよう、これからより活発に取り組んでいければと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

では、これから寒さが一層厳しい時期に入りますので、皆さまお身体にお気をつけてお過ごしください。

では、これから寒さが一層厳しい時期に入りますので、皆さまお身体にお気をつけてお過ごしください。

では、これから寒さが一層厳しい時期に入りますので、皆さまお身体にお気をつけてお過ごしください。

わくビレだより

高尾わくわくビレッジ館長 菅野 牧夫

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願い申し上げます。寒い日々が続いていますが皆様いかがお過ごしでしょうか。

12月20日に東京都へ提出した提案書に対してのヒアリングが実施されました。これで3期獲得に向けての対応はひと段落となります。あとは1月に東京都からのレスポンスを待つのみとなりました。このお正月はほっと一息をついて新年を迎えることができました。結果が確定するまではまだ少し時間がかかりますが、新年を迎えてわくわくビレッジでは3期事業を獲得することを前提に次年度以降の準備に入りました。すでに宿泊については、次年度の予約を再開していますが、食事の予約やプログラムの予約を止めています。解禁になった際にどのようにアナウンスしていくのか、集中して入ってくる予約をどうやってさばっていくかなど、お客様にわかりやすいように段取りを建てなければなりません。それだけではなく、京王ユースプラザとYMサービスの契約も進めていかなければなりません。3月末までに、これらのことを完了させなければならぬので、まだまだあわただしい日々が続きます。正月のほっと感は一瞬でした…もうしばらくの辛抱です。

わくわくビレッジでは社会教育事業を行うために、新しいプログラムスタッフが入ると順番で社会教育士の資格を取るために講習会に派遣しています。講習会に参加するためには団体から承認をされなければなりません。今年度は2名のプログラムスタッフが、無事に講習会に参加できることになりました。1月14日から2月末まで講習や実習を受けてテストやレポートを完了し、認定されると社会教育士の資格を手に入れることができます。ひと月半、職場を離れますが2名には頑張って資格を取ってもらいたいと思っています。応援してください。



2025年元旦 初日の出

東京YMCA 近況報告

菅野牧夫

- 11月9日、「YMCAこどもの歌お披露目コンサート」が日本基督教団霊南坂教会で開催され、シンガーソングライターの新澤としこ氏がYMCAのこどもたちのために作詞作曲した『ひかりのうた』が披露された。東京YMCAの幼稚園、保育園、こども園、アフタースクールのスタッフ約150人が参画したワークショップなどを経て完成した歌で、今後東京YMCAに集う子どもたちのテーマソングとして広く歌われていく予定。
- 12月7日、日本YMCA同盟主催、東京YMCAと日本児童青少年演劇協会の協力で、「ウクライナ避難者支援クリスマスチャリティー公演」が山手センターで開催され、ウクライナと日本の親子約80人が来場した。人形劇団ポポロによるウクライナ民話「てぶくろ」の劇を鑑賞し、第2部では、レクリエーションや写真撮影等を通してウクライナと日本のこどもたちが交流した。
- 約100年の長い歴史を持つ東京YMCA野尻キャンプのヨット「オメガ」の修繕のために寄付を募ったところ、多くの方の協力により目標額を超える1,221,000円が寄せられ、無事に修繕が完了した。
- 今後の主な行事予定
 - ・ソシアスフォーラム2024)2月1日 会場:山手センター
テーマ:「日本社会で生きる外国にルーツのある子どもたち」
講演・報告:是常景子氏(東京YWCA青少年育成事業部)江尻明子氏(東京YMCA多文化共生スペース▽)

2/1 (土) 14:00~16:00

会場:東京YMCA山手コミュニティーセンター
*オンライン配信あり *参加無料



- ・「YMCAピンクシャツデー2025」(いじめ反対運動)
2月26日
- ・「国際協力一斉街頭募金」3月22日 新宿駅周辺
- ・「総主事就退任式」3月29日
会場:日本基督教団霊南坂教会

今月の聖句によせて (2025年1月)

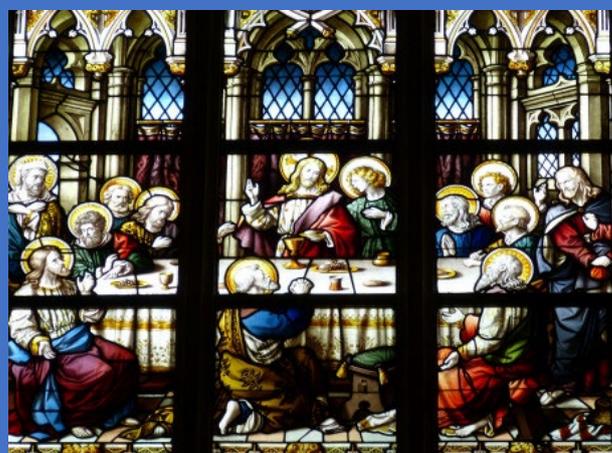
現在、キリスト教会の重要な聖礼典とされる洗礼(バプテスマ)の起源は、イエスが弟子たちを宣教のために派遣する際の、「あなたがたは行って、すべての民を弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼(バプテスマ)を受け、あなたがたに命じたことをすべて守るように教えなさい」(マタイ28:19~20)といふ、言葉にあるとされます。

今月の聖句にあるように、イエス自身、その宣教活動をはじめるときに、洗礼者ヨハネから洗礼を受けられました。ヨハネが「私こそ、あなたから洗礼(バプテスマ)を受けるべきなのに、あなたが、私のところに来られたのですか」と言ったにもかかわらず、です。

ヨハネによる洗礼(バプテスマ)は、人間が過去におかした罪を洗い清める「悔い改め」のしるしとしての洗礼(バプテスマ)でした。罪を洗い清められた人は、常に新しい人生を歩み進む、恵みの機会とされます。しかし、罪なき人であるイエスが、何故、罪を悔い改めるしるしである洗礼(バプテスマ)を受ける必要があったのでしょうか。イエスは、「今はそうさせてもらいたい、すべてを正しく行うのは、我々にふさわしいことです。」とヨハネに伝えています。

イエス・キリストが自らの人生を、罪ある人間に寄り添い、共に苦難の道を歩もうとする決意の表明と受け取ることができます。

並木 信一



2024年12月第一例会(クリスマス会) 報告:小口

日時:2024年12月14日(土)17時~20時
会場:大学セミナーハウス:交友館&本館
担当:C班(並木(信)、大久保、菅野、山本)
出席者(敬称略)

ゲスト:飯島隆輔牧師、飯島愛子、永町匡世(ピアノ)、
阿部智世(バイオリン)、茂木稔、酢屋善元、福田勝江
ビジター(東京多摩スマイルクラブ):田中博之、田中直
美、綿引康司、為我井輝忠

ひつじくも:折原美結、石原島伶名、藤原直輝、
(ひつじくもOB)一柳原絵里子、宮内蒼也、関口 遼
A班:長谷川、佐藤、稲葉、小口
B班:並木真、花輪、久保田、久保田佐和子、望月
C班:菅野、山本、大久保、並木信一、並木雍子
以上、31名

第一部:クリスマス例会(17~18:00)交友館

司会、並木信一 奏楽、阿部智世さん(バイオリン)
メッセージ 暗き世を照らす光 (聖書:新約、ヨハネに
よる福音書1-5, 15
日本基督教団城西教会:前牧師 飯島隆輔牧師
報告と連絡事項/並木真会長
閉会点鐘/並木真会長

第二部:懇親の夕べ (18:10~20:00)本館ホール

司会、菅野牧夫
開会挨拶 並木真会長
ゲスト・ビジターの紹介/会長、
乾杯/茂木稔さん
会食
ピアノとバイオリンの演奏/永町匡世さん、阿部智世さん
ショートスピーチ・ゲストとビジター
*ひつじくも活動報告/ユースアクションの内容
藤原直輝さん
*パレスチナ支援のための映画上映会(10月26日実施)
報告と支援感謝・宮内蒼也さん
*報告「子ども食堂カフェ北野」への支援金と支援品の
報告・久保田佐和子さん
Happyバースディ・田中博之さん、折原美結さん
スマイル(多摩いのちの電話のために)・22,000円
写真撮影(田中博之さん)、解散

2024年12月第二例会・報告 書記:小口

日時:2024年12月28日(土) 18:00-20:00
会場:北野事務所2F
出席者・敬称略:長谷川、佐藤、稲葉、小口、久保田、並
木(真)、望月、花輪、並木(信)、菅野・10名

- ① クリスマス例会報告(担当C班)、報告、会長。
日時12月9日(土)pm5時 大学セミナーハウス

出席者、八王子14名、ビジター4名、ゲスト7名(内、
元会員3名)、ひつじくも6名(内、元OB3名)
合計31名

☆スマイルの22,000円を、多摩いのちの電話へ
送金済み(長谷川)。

- ② 1月第一例会 1月25日(土)6:00~ 北野事務所、
A班担当
卓話「能登半島災害支援活動報告」~支援活動を通
して学んだこと、感じたこと~
卓話者 熊沢佳代氏 (東京YMCA会員部職員)
1月のスマイルは、先の9月分と合わせて「能登半
島災害支援のために」として東京YMCAへ献金。
- ③ 2月第1例会 2月22日土、北野事務所B班 卓話
者 藤原直輝さん(中大ひつじくも3年)
卓話内容、ワズユースアクションの今年度、エン
ターテインメント活動報告として
10月に行われた川口市での多文化共生活動をテ
ーマに地域での交流イベントのこと。
(この活動は、もう一度川口市での2月上旬にあ
ずさ部評議会と同日)計画されているので、
その時は、八王子クラブからも応援に行きたい旨
を、並木会長を通して伝え、返事を待つ)
<これからの予定>
- ④ ・1月11日(土)会長会・在京新年会(東陽町)午
前中の会長、担当主事会は並木会長・菅野担当主
事。午後の新年会出席(並木会長、久保田、長谷
川、菅野、小口)pm13:30~16:30 東陽町
・1月25日(土)1月第一例会/卓話、例会前の
pm4時~5時にコンサートの打ち合わせ(小会議
室)。
・2月8日(土)あずさ部第2評議会(甲府)
・2月22日(土)2月第一例会/卓話
*3月1日(土)八王子クラブ街頭募金のこと(並木信一)
集合午後1時、JR八王子駅北口階段下(黄色ジャン
パー)、雨天中止
・目的:能登半島地震&豪雨被災者支援活動への東京
YMCAを支援。
・八王子警察署への許可書申請、募金箱の用意、横断
幕など、並木(信)が準備。
・募金終了後はサイゼリアで、集金計算(自由参加)。
・3月8-9 次期クラブ会長・役員会(御殿場、東山荘)
・3月15日 第23回チャリティーコンサート 北野市民セ
ンター 担当、花輪委員長。
・役割表は1月例会で、2月の八王子市広報に掲載を
申し込む(花輪)。地雷廃絶パネル、地雷犬、並木保管。
・八王子市市民活動支援センター誌1月1日号に、コン
サートの広告を掲載(久保田)

- ・3月22日(土)第二例会は中止
→ 高雄・港クラブ 25周年記念会出席の為。
- ・4月12日(土)を第二例会に変更。(並木真会長の区役員会出席のため、日にち入れ替え)
- ⑤ 上半期クラブ会計報告・・会計、長谷川さん(会計報告書を配布)
- ⑥ 次年度クラブ運営体制(次期クラブ役員)
◎2025年7月新会長・・長谷川あや子に決定、
副会長・久保田貞視、書記・小口多津子、
会計・稲葉恵子、直前会長・並木真
- ⑦ ソシアスフォーラム・・2025年2月1日(土)pm2:00～
山手センターZOOM 併用 東京YMCA主催
- ⑧ YMCA 同盟の田付氏より、韓国済州島で実施された、第一回クリスチャン・ユースアッセンブリに参加した、日本からの学Y3名のうちのひつじくも2名(藤原君、小暮さん)の報告会の打診。
- ⑨ 3月22日IBC高雄・港クラブ 25周年記念会開催。(以上)

先月の例会ポイント (12月)

在籍	12名	切手	0g	計 45g
メン	12名	現金		0円
メーキャップ	0名	累計		0円
出席率	100%	スマイル		22,000円
メネット	2名	累計		56,500円
ゲスト	7名	オークション		0円
ビジター	4名	累計		0円
ひつじくも	6名			

1月例会卓話者紹介

熊沢佳代 さま

1989年 東京YMCA 社会体育専門学校卒業
東京YMCAに入職(9年間専任講師、その後正職員)
山手センター(9年間)⇒ウエルネス神田(4年間)
⇒東陽町ウエルネス(9年間)⇒芝浦アイランド交流プラザ(5年間)
⇒グランチャ東雲(5年間)⇒会員部(3年目)
現在に至る
ウエルネスでは、水泳、キャンプ事業に従事
芝浦、東雲では、高齢者の介護予防としての水泳や体操指導などに従事
会員部では、チャリティーイベントを主に担当。
今年は被災地支援活動として、募金活動なども担当している。



<LYCの様子>



セッションの最中に



カルチャーナイト後



1月お誕生の方

- 佐藤信也さん 1月1日
- 佐藤正子さん 1月9日
- 並木信一さん 1月20日